

貴重な御講演に對して稍御講演の主旨に遠ざかりたるが如き感ある質問を致しましたは甚だ恐縮に存じます。其の點は特に御寛容あらん事を願ひます。

著者 會員 工學士 重 松 愿

御質問に對し答のおくれたことをお詫び致します。

構造中の構材應力に關する性狀符號は其の格點を各別に原點とする方法を探るから、一構材 bc に對して b を原點とするときと c を原點とするときは、例へば係數 $\sin \omega$ に就て角度が ω と $\pi + \omega$ と相違することから $\sin \omega_{bc} = -\sin \omega_{cb}$ となる如く、 b 端の M_{bc} と c 端の M_{cb} とは bc に關する同一代數式に就ては其の符號に關する限り bc 上の c 點にて不連続となることに注意せられたい。

亦直交座標でも $0^\circ \sim 360^\circ$ の左廻象限に準ずるものが從來より數學上で一般に行はれてをるが、特に構造學では變位の方角を下方に視る便宜上から右廻轉象限を探ることもある。斯くすると代數式の縦軸に關する符號が一般數學に視るものと異なつて來るが、符號の規約通りにした計算の結果に至つては何れも同一の解答が得らるべき筈であり、要するに適切なる符號規約と言ふことに就て廣く觀て欲しいのであります。

お互に弾性法則の本質から外れた應答になりましたが、尚ほこの法則の實用化として橋梁結構或は建築構等に適用したものを考究しおき順次亦本誌上に載せて貰ふことになるかと存じて居りますから、其のときに更に筆者初め同學諸士の御叱正を願ひ度いのであります。